

大人のチカラ

13

～子どもたちの未来のために～

社会のルールを身につける①

親自身の生活を見直す

2 009年度に施行された新しい幼稚園教育要領。その中で「規範意識の芽生への育成」が新たに示されるなど、近年、社会のルールやマナーが守れない子どもが増加していることが危惧されています。改めて日々の生活を見直してみませんか。 改め

マナーが守れない規範意識が希薄化

「幼児期は親や友達など周囲に影響を受けやすい時期。四国学院大学社会福祉学部社会福祉学科准教授の

古賀松香さんはこう指摘し、「子どもの規範意識の薄れには、大人の規範意識の乱れが関わっています。例えば、『自動車乗車中の幼児（6歳未満）にはチャイルドシートを着用義務がある』と知っ

ているのに、『実際には着用していない』というのがその表れ。まずは親自身の生活や意識を見直すことが大切」と現状を分析します。

3歳まで自己中心衝突多くなる4歳

「規範意識には守らないといけない」と頭で理解する知的な側面と、むしろ相手手が悲しむといった情緒的な側面があり、まずは後者の「道徳性の育ち」を養うことが重要です」と古賀さん。「個人差はありますが、3歳までは自己中心性が強く、なかなか相手を理解するまでには至りませんが、4、5歳になると他人は自分とは異なる気持ちをもつこと

が理解できるようになる。特に4歳は友達間での衝突も多くなり、人間関係の葛藤が起ります。この時期に親が子どもに丁寧に関わることが必要」。子ども間で衝突が起った際は大人の出番。トラブルを避けるのではなく、トラブルを通して人間関係力を養う機会にすることが重要です。「したらだめ！」ではなく、どうしたかったのか子どもの気持ちを受け止めてから相手の気持ちを一緒に考える手助けをすること。その前提として大人が「どんなときも理解してくれる」と



子どもから信頼されることが必要です。自分を大切にされた子どもは、相手も大切にできます。この思いやりの心が、規範意識の芽生えにもつながります。

3歳ぐらいからルールのある遊びが楽しめます。楽しみながらルールの意味を学べる機会をもつことも重要です。